

### 山行報告

#### 陣見山清掃登山(12月5日)

参加者 会員(障害者6名、健常者14名)  
会員外(健常者2名)

秩父鉄道の波久礼駅に降り立ち、全員が合流する。今日は、12月としては非常に暖かく、天気も快晴で、最高の登山日よりだ。

今回は、Kさんのお子さん3人が参加となる。未成年会員で元気いっぱいのKK君、今回が初参加のKNちゃん。1年半ぶりとなるKSちゃんだ。KSちゃんは、今年5歳になった。この家族に、山仲間アルプではベテランのSYちゃんも加わって、今日は子どもデーだ。

波久礼駅で、ごみを拾う準備をして出発する。カンボの宿から登山道になる。KSちゃんは先頭で、元気に歩いている。ただ、前に行きすぎるため、時々、お兄ちゃんのKK君に、ストップをかけてもらう。

楽しい落ち葉の道を歩きながら、KSちゃんはジャノヒゲのきれいな青い実を見つけて、楽しんでいる。KK君のアイデアで、1班は燃えるごみ、2班は燃えないごみ、3班は粗大ごみを中心に拾うことにする。

かなり歩いて、登り着いたところが虎ヶ丘城趾だった。少し早い東屋があるので、ここで昼食とする。Yさんは、とろろ昆布を巻いた3

合のご飯で作ったおにぎりをほおぼる。食べきったのだろうか？ KK君とKNちゃんは、何でも食べるYさんに虫を捕ってきてあげている。何とかという虫は、チーズ味だとか？ 腹をこわさないでよ～。



KSちゃんは薪を拾うし、KさんとKK君は、2本の木をチムニーに見立てて登るし、Kさん親子は、いつもにぎやかで楽しい。みんなお母さん似ですね。



このコースは、予想以上にアップダウンが激しく、急登や急下降も何力所があった。KSちゃんは、元気に歩いていたが、ご飯の後だけは、

眠くなったのだろう、少し元気がなくなってきた。この頃から、手をつないで歩くことが多くなってきた。

陣見山の山頂は、全く見晴がない。しかも電波塔が建っていて、地味な陣見山だった。

山頂付近や道路付近は、ゴミが非常に多い。山頂付近では、少しいねいにごみを拾ったが、なかなか拾いきれなかった。

山頂を過ぎると、何度か舗装道路にでる。しかし、舗装道路にでると、すごい急登が待っている。とにかく、アップダウンが激しい。

ようやく榎峠に着く。ここは車道が走っているため、ゴミだらけだ。しかし、さすがに粗大ごみは拾えない。チャイルドシートまで落ちていた。

ここからジグザグの車道を避けて真っ直ぐ下る登山道に行く。石が混じった歩きにくいところもあるが、KSちゃんは、足首がクキッと

## 天祖山(12月12日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

今日はすばらしい快晴に恵まれて、奥多摩駅に到着した。すぐバスに乗り、東日原に向かう。東日原でHさんと合流し、車で来たHさんから八丁橋まで運んでいただく。この時間短縮は、非常に大きく、Hさんに深く感謝しています。

天祖山は、八丁橋から長沢背稜に登る尾根の途中にある山なので、非常に地味だが、上り下りはなかなか手ごわい。2人ほど転落死した場所らしい。山頂からの展望もなく、人気はないが、それだけに静かな山行を楽しめる。今回も、単独の登山者2人と、2人のハンターに出会っただけだった。

登りはじめから急登となり、斜面をトラバース気味に登るため、谷側の切れたところが続く。

なっても転ばず、早いペースで下っていく。KNちゃんも、快調に下る。恐るべし子どもたちだ。

ようやく車道に出て、樋口駅を目指す。正面には、雄大な姿で佇む大平山があった。夕方の斜行線を受けて、赤みを帯びている。民家の生け垣の近くにあったピラカンサは、たわわに実が付き、見事だった。

樋口駅に予定より少し遅れて着き、次の電車を40分ほど待った。ホームにある電車の待合室には、KSちゃんを抱っこしたHさんの姿があった。孫を抱くおじいさんのようではほえましかった。

## コースタイム

波久礼駅(9:45)...虎ヶ丘城趾(11:25-12:00)...大槻峠(12:30)...陣見山(13:30-13:50)...榎峠(14:35-14:45)...樋口駅(15:55)

高所恐怖症の人にはつらい場所だ。

しかし、高度はぐんぐん上がっていく。危険な場所を終え、広くなった尾根を登っていくと、ロボット雨量計に到着する。日原川を挟んだ対岸の鷹ノ巣山が大きく見えてくる。



ここからは、深い落ち葉の道が続き、転落するような危険な場所は、ほとんどなくなる。しかし、落ち葉が深すぎて、登山道を見失う危険があるので、樹木につけられた目印を頼りに登っていく。

荒廃が進んで見るも無惨になった大日神社を通り過ぎ、さらに登っていく。ちらほらと雪が出始めた。北側の斜面は真っ白になっている。この冬最初の雪との対面だ。

標高 1,300m 付近の平らなところで、このまま山頂まで登って昼食にできると思ったが、空腹感が強くなり、みんなシャリバテ気味のようなので、ちょうど 12 時頃に昼食とする。



雲一つなかった空には、次第に雲が増えてきている。それでも、木々の間から七ツ石山や雲取山が見えるようになってきた。唐松の生えていない唐松平付近からは、雲取山荘も見えた。夏は全く展望のない尾根だと思うが、木々が葉を落としたこの時期は、展望が良く、比較的楽しめる。

### 仙元山(12月19日)

参加者 会員(障害者7名、健常者14名)

朝の東京は雲が広がっていたが、新逗子駅に着く頃には、すっかり晴れ上がっていた。

新逗子駅の1番乗り場でバスを待つ。下りるバス停は、風見橋(かざみばし)だとばかり思っていたが、風早橋(かざはやばし)が本来のバス停だった。風見橋というバス停はありませ

山頂直下は、一面の雪景色となってきた。山頂には、男性が一人休憩していたが、寒い山頂に長居はできず、みんなで写真を撮って、早々に下山にかかる。もう上空は、完全に雲に被われていた。

ところどころ、段差の大きいところがあるが、順調に下っていく。ただ、一番最後に危険な場所があるので、何とか明るいうちに下に降り立ちたいと思い、休憩は少な目に下っていく。

ロボット雨量計を過ぎ、尾根から急な斜面に下りていくところで、Hさんと私で、Kさん、Fさんをサポートする形で、ロープを繋ぎあって下ることにする。何力所か落ちたら助からないところがあるが、慎重に下って、全員、無事に八丁橋に下ることができた。時間は16時30分。Hさんの車に乗せていただいて、はしり始めるとすぐ、夜の帳が下りてきた。

### コースタイム

八丁橋(9:35)...ロボット雨量計(10:40-10:50)  
... 1,300m 付近 (12:00-12:35) ... 天祖山  
(13:15-13:15)...ロボット雨量計(15:15)...八丁  
橋(16:30)

ん。



下りたところは狭いため、広いところまで行って、自己紹介をすることにする。しかし、なかなか良い場所がなく、急なコンクリート道路

を登って、たどり着いた葉山教会の駐車場で行くことにする。

教会からは山道となる。そして、一登りで、仙元山の山頂に到着した。山頂からは、富士山とその両隣に箱根と丹沢の山々がうっすらと見えている。江ノ島と相模湾の向こうに広がる太平洋もよく見える。江ノ島の手前には、多くのヨットが帆を立てている。

ここで昼食を取った後は、階段の多いアップダウンの道歩く。今回、最も標高の高い198mのピーク手前への登りは、傾斜が急で長い階段が立ちはだかっていた。そこを登り切ったところで、少し休憩して、ピークには寄らず、トラバース気味に進む道に行く。

右下には、クリーンセンターの煙突が見える。そして、分岐に出会う。今回は、葉山に下る道に行くが、ここを左に折れると、双児山などに続く道で、三浦アルプスと呼ばれているようだ。

こちらは、右に折れて、そのまま尾根を歩く。尾根から外れ、道なりに下りていくと、舗装道路にでた。ツバキやスイセンなどの花がきれいに咲いている。

ここから、葉山町役場入口の交差点に出て、そこを左に折れて、葉山御用邸に向かう。御用邸の前を通り過ぎ、しおさい公園に行くが、ここは入場料が300円も必要なので、入場は止め、隣の道を通って海岸に出る。ここが一色海岸だ。日の入りにはまだ早い。海岸線近い空は、赤みを帯びてきている。浜辺に下りる階段で話しに花を咲かせる人たちや、浜辺で波と戯れる人たちなど、思い思いに休憩する。

## 物語山(1月8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)  
会員外(障害者1名、健常者1名)

今日は、この冬一番の冷え込みだったので

このあとは、一色海岸のバス停から逗子駅に戻る予定だったが、御用邸の裏の砂浜を歩いてから帰ることにする。



少し歩いていくと、ボートでタコを捕った人たちがいて、タコを見せてもらったり、さわらせてもらったりした。そこから赤い欄干の橋を渡って、葉山公園に行く。そこから葉山のバス停に行き、バスで逗子駅に戻った。忘年会に出ない3人の方は、歩いて新逗子駅に向かった。

ちょうど良い時間となり、少し早めに忘年会の会場に到着する。山に参加できないけど、忘年会だけはぜひ参加したいというMさんも合流して、Kさんの乾杯の音頭で忘年会が始まった。

今年も、多くのみなさまのご協力のおかげで、無事に事業を終えることができましたことを深く感謝申し上げます。

## コースタイム

葉山教会(11:25)...仙元山(11:40-12:35)...葉山町役場入口交差点(13:45)...一色海岸(14:15-14:40)...葉山バス停(15:25)

ないだろうか？ 自宅を出ると、身が引き締まる寒さだ。

今回は、上野集合組5人衆は、事前に購入した青春18切符で行く。高崎でAさんと合流し、下仁田で、初参加のSさんと車できたHさん、Mさんと合流する。今回は、上野に集合したT

さんも初参加で、少人数だが初々しい気持ちで歩きはじめる。

気温は低いが、風がないので、それほど寒さを感じない。30分ほど歩いたところで、防寒着や下に着ていたフリースなどを脱ぐ。ルリビタキの雌がすぐ近くで見られ、足下には植物のシモバシラが見られた。



日差しをいっぱい受けて山道を登る

燦々と降り注ぐ太陽の光は、木々の枝を輝かせてくれる。日だまりの林道を楽しく歩いていくと、ようやく登山口に到着した。一旦沢に下り、すぐに急登になる。初参加のSさんが、疲れたので待っているというが、まだ全く息も上がっていないので、十分に登っていけると判断し、ゆっくりと登っていく。

尾根を回り込み、さらに斜面をジグザグに登っていく。後をふり返ると、葉を落とした木々の間から空母のような荒船山が見えてくる。真っ青な空が非常に気持ちよい。



物語山西峰にて

登りは、とにかく急登の連続だが、西峰と本峰のコルが見えてきた。ところどころ、掴まって登れるロープも出てきた。最後の急登をがん

ばると、コルに飛び出した。ここは、さすがに少し風がある。

西峰の方が展望がよいということなので、まずは西峰に行ってみることにする。登山道はそれほど狭くないが、北側の山腹は、スッパリと切れ落ちているので、慎重に登る。



見事な浅間山

登り着いた西峰は、すばらしい展望だ。雪を抱いて真っ白に染まった浅間山がひととき目立つ。その右には、鼻曲山と浅間隠山が見える。さらにその右手には、裏妙義と妙義山がよく見える。その右手奥には、赤城山と上州武尊山が見えている。妙義山の後には榛名山が見える。裏妙義の奥は、谷川連峰など上越の山々だろう。一番左手には荒船山が見え、最高の展望を楽しめた。



岩山の妙義山

記念写真を撮った後は、初めてのSさんをHさんがロープでサポートしてくださり、慎重に下る。

コルからそのまま物語山の山頂に登る。ところどころ、岩場や大きな段差があるが、クリアして登っていく。しかし、山頂の手前で、ここ

までがんばってきたSさんの足が攀ってしまっただので、ここで昼食とする。山頂は、いかなくても良いだろうと思っていたが、トイレがてら登ってみたら、山頂はすぐそこだった。それなら、ここで引き返すのはもったいないということで、全員山頂に登る。展望はないと思っていたが、木々が葉を落としていたこともあり、妙義山から浅間山まで、よく見えた。

下りは、急なこともあり、登り以上に慎重に下る。来週の湯ノ丸山の話などで盛り上がったが、サポートは真剣に継続している。登山口の林道に着いたが、その後も、何カ所か林道が

### 湯ノ丸高原(1月15日～16日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)  
会員外(健常者3名)

1月15日

高速バスは、遅れることなく東部湯ノ丸に到着した。この付近には、雪はほとんどなかった。タクシーで地蔵峠への道を上がっていくと、雪が現れてきた。平年よりは少ないようだ。

湯ノ丸ロッジで、昼食をいただき、今日は、湯ノ丸山を目指すことにする。まだ雪は降っていないが、どんよりと雲って、湯ノ丸山も見えない。



長いつららをなめるKSちゃん

最年少5歳のSちゃんは、手袋の調子が悪い

崩れて狭いところがあるので、注意しながら下っていく。

尖ったメンベ岩や近くに現れたミソサザイなどを見ながら下っていくと、車を止めたサンスポーツに到着した。HさんとMさんの車のおかげで、予定どおりの電車に乗ることができました。ありがとうございます。

### コースタイム

サンスポーツ(10:25) ... 物語山西峰(12:30-12:35)...物語山(13:40-13:45)...物語山登山口(15:00-15:10)...サンスポーツ(16:10)

ので、別行動とし、Aさんが一緒に遊んでくださることになった。今回のメンバーでは、最齢のNさんは、今年も元気にスキーです。



湯ノ丸ロッジの前で

登山グループは、12人でロッジをあとに歩きはじめる。いつものキャンプ場から湿原を経てつつじ平にでるコースだ。小6の女の子たちは少し疲れたようだが、まだまだ元気がある。雪の上に寝そべて、楽しんでいる。

つつじ平からは傾斜が急になり、スノーシューが滑って子どもたちも苦労している。しかし、この登りではまだ風が無く、それほど寒さを感じない。樹林帯の上部で、山頂から下りてくる6人くらいのパーティーを右手にみつけた。今日、出会った登山者はこのパーティーだけだった。

樹林帯を抜けると山頂はすぐそこだが、完全

に霧に包まれる。急登を終え、山頂のすぐ手前にでると、風が急に強くなる。また、木々が無くなったこともあり、空と雪面の境目が分からなくなるホワイトアウトの状態になってきた。帰りに間違わないように、時々ふり返って、足下のブッシュや岩の配置を記憶しておく。



湯ノ丸山の山頂にて

山頂に立つと、風は一層強くなる。とにかく風の強いところを早く避けて樹林帯に戻りたかったので、先についたメンバーで写真を撮る。すると、すぐに後のHさんや子どもたちが登ってきた。再度、全員で、写真を撮って、下りにかかる。

ルートを見失わないように慎重に下る。また、全員が離れることがないように、一緒に下る。ただ、後の方で、風が当たらないように風防をしっかりとっているのか、なかなか下りてこない。1分ほどで樹林帯に着くから、そこまでの我慢なので、風の当たる寒い状況で立ち止まるより、樹林帯まで速く歩いた方が総合的に見たら安全だと思うが、離れるわけにはいけないので、歩きはじめるまで待つ。



初登山で冬山に登ったYSちゃん

樹林帯に入ると、もう安心だ。登ってきたトレースをシリセードで下ることにする。オーバーズボン、滑りにくいので、私はスーパバグを尻に敷くが、子どもたちは、Hさんから買ってもらった尻に敷くスコップのような形をしたものを使って滑る。最初は怖がっていた小6の女の子たちも、きゃーきゃーいながら滑っている。K君も、快調に滑ってくる。

下りは、第一ゲレンデを下る。ここでも滑って下りる。この頃には、雪は本降りとなっていた。



KファミリーとYSちゃんの演技です

ロッジに着き、入浴後は、恒例の懇親会だ。夜11時頃まで、歌などを楽しみ、眠りにつく。

1月16日

2日目の朝、外にでると、30センチほど雪が積もっていた。気温は、氷点下12。かなり冷え込んでいる。

今日は吹雪かと思っていたが、時折日も差すまずまずの天気で、十分に行動できるようだ。ロッジから第6ゲレンデの上に登り、雲上の丘を目指すことにする。Sちゃんはそりに乗って、Hさんとお母さんが引いていくことにする。

スキーヤーのじゃまにならないように、ゲレンデの端を登る。ふり返ると、昨日登った湯ノ丸山がよく見えていた。そりは交替で引いていく。そりを引く側はかなり力を使い、暑くなるが、引かれるSちゃんは、相当寒かったようだ。自分から寒いといたり泣いたりせず、非常に強い子だ。しかし、寒いかと聞くと、寒いとい

い、ガタガタ震えている。これは厳しい状況だと判断し、フリースを一枚着させ、温かいお湯を飲んでもらう。そして、ここから引き返すことにする。



スキー場を最初は歩いて下り始めたが、そりを使えるのではないかと試したが、しっかり滑れるので、途中からSちゃんを乗せて一緒に滑る。最初は楽しいと言っていたが、方向転換などでブレーキをかけると雪が舞い上がって顔にかかる。平らなところについて、顔を見ると、雪が付いてものすごく寒そうだった。雪を取り除き、早く下ってきたAさんにそりを持ってもらい、Sちゃんを少しでも早く暖かいところに連れて行ってあげたいと思い、レストハウスに入ることにする。

## 不老山(1月23日)

参加者 会員(障害者6名、健常者12名)

朝、東西線のトラブルで遅れていた皆さんも、柵沢キャンプ場バス停にタクシーで15分位の遅れで駆けつけてくれ合流し、一安心。今朝、河原に霜が降りているが、風がなくさほど寒さを感じない。

わいわいガヤガヤと、ゆらりゆらりと丹沢湖

ここで、少し温まってもらってからロッジに戻った。ロッジで温まると、頬に血行が戻り、冷たかった手も温かくなってきた。元気でできて、はしゃぎ回るようになり、一安心だった。

ロッジでおいしい昼食をいただき、先に帰るHさんとKさんご一家、それにYちゃんを見送り、あとのメンバーは、15時過ぎにロッジをあとにした。高速バスは、練馬インターが大渋滞で、2時間近く遅れて池袋に到着した。

これまで何度も楽しませていただいたこのロッジもあと1年ほどで無くなるかもしれない状況です。可能であれば、これからも継続して欲しいと思いますが、とにかく今回も、Aさんとロッジのご夫妻に大変お世話になりました。ありがとうございました。

心配な場面もありましたが、子どもたちからも楽しかったと言ってもらえました。参加していただいたみなさま、ありがとうございました。

## コースタイム

1/15 湯ノ丸ロッジ(13:25) ... 湯ノ丸山(15:10-15:25)...湯ノ丸ロッジ(16:50)

1/16 湯ノ丸ロッジ(9:30)...第6ゲレンデの上(10:40)...湯ノ丸ロッジ(11:30)

から流れ出る河内川の吊り橋を渡り、畑の中の道を通り登山道に取りつく。梅が一分咲きまでもいかないが、咲いていた。ここはもうそろそろ春。もうすぐ春ですねえ～と歌いたくなる。登山道は、傾斜の強い山腹をジグザグに上がっている。木々は、広葉樹であるので葉を落とし、朝日が入り明るく暖かい。

登山道は、傾斜が緩んでくると、尾根を回り込み、沢に向かってトラバースして次の尾根に絡んでいる。そのトラバースの道幅は30cm位で左手が沢に向かって落ちている。ひと組ひと組慎重に、ロープを出すことなく無事通過で

きた。その後、樹林帯に入って行く。この辺りから、昨年の豪雨の爪痕がいたるところで登山道を分断していた。迂回を繰り返しながら登って行く。Kさんの孫小学2年生のS君にトップを取らせる。崩壊でスリルを感じるのか、さらに元気に登って行く。そして「相棒、相棒」と叫んで背丈以上の倒木を引きずって登って行く。「無駄な力は使わんと。ばてるばい。」(これは筑豊弁で無駄な力は使うなということですが)といっても、「相棒」を離さない。いやはやなんとも元気でした。



やっと、番ヶ平への稜線鞍部に到着。M k oちゃんもしっかり元気について来た。不老山は左手西方にある。この鞍部で、日当たりがよく北方の山が望めるので、昼食とした。北方には大室山、加入道山であろうか、道志川左岸の山々が眺められた。

番ヶ平の林道から不老山山頂への最後の登りをこなす。間もなく320m不老山山頂の到着。不老山標識の前で記念写真を撮り、展望がないので、3分ほど西方に移動する。雲がなかったら、でーんと富士山が立っているはずだが、あいにく雲に隠れていた。

下山にかかる。すると前方に白いきつね?・・・白い大型犬が尻尾を振っていた。「おいおい」と手招きしたら、じゃれて来た。捨てられたのか、迷子になったのか。いつとき

尻尾を振りながらついて来た。Aさんよりパンをもらい、犬にパンを与えた。むさぼるようにたべ、満足したのかどこかに消えた。



金時公園へ下山道がロープで封鎖されていた。理事長が電話で通れることを確認してくれましたので、金時公園への道をとる。登山道はしっかりして歩きやすかった。ほどなく林道にて、金時公園に降りる。この林道も昨年の豪雨の影響を受け、いたるところで大きく崩壊していた。出水の物凄さを語っていた。崩壊に近づかなければ問題ないので、無事に金時公園に降り立つことができた。運動場ほどもある広場をS君が2周も走ってきた。ここでも、いやはやなんとも、元気でした。今日は楽しかったみたいでした。金時公園に、「坂田金時誕生の地」の看板と大きなマサカリがあった。御殿場線駿河小山駅で電車に乗り帰路に付く。

理事長、会計のPさんYさん、参加者の皆様の協力、メンバーシップ、サポートにより、無事に山行を終えることができました。本当にありがとうございました。 記：H

### コースタイム

棚沢キャンプ場(9:20)...番ヶ平手前の稜線鞍部(11:50-12:20)...番ヶ平(12:40)...不老山(13:30-14:00)...駿河小山駅(16:50)

### 沼津アルプス(2月6日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)

会員外(健常者2名)

沼津アルプスは、鎖場などが多く、かなりの岩山と聞いている。また、道標が地元の方の手作りでかわいいとも聞いてきた。

そんなことを楽しみに、沼商のバス停で下車し、自己紹介を行う。今回は、2人の方が初参加だ。一人は、Fさんの友人でカナダ人。もう一人は、三島にお住まいの若い女性。フレッシュな人を迎え、歩きはじめる。



稜線まで上がると、すぐに急な階段が始まる。このあとも、すぐに鎖の付いた長い階段だ。杭に番号がふられ、1番が徳倉山の山頂近くになっているようだ。「えんやこら」とがんばって、階段を登っていく。1番の杭の少し先に徳倉山の山頂があった。山頂は、草原の広場となっていて、とても気持ちの良い場所だ。沼津市や駿河湾がよく見える。今日は薄く曇っていて、もやっているため、残念ながら富士山は見えなかった。反対側には、これから向かう鷲頭山が聳えていた。

徳倉山からはちょっと急な登山道を下っていく。そこからは、しばらく歩きやすい道が続く。広場にでたところで、昼食タイムとする。熱海で買ったという寿司弁当やトチオトメが回ってきて、豪華な昼食タイムとなった。提供してくださったみなさま、ありがとうございます。

ここから、初参加のSさんにFさんのサポートをしていただく。ベテラン視覚障害者のFさんのガイドも良く、楽な道から急な下りまで、しっかりサポートしていただいた。

しかし、この下りはかなりきつく、Mさんが遅れ始めた。志下坂峠で、全員が揃ったが、Sさん親子は、ここから下るといふ。確かに、この先も厳しい山道になりそうなので、下った方が無難と思い、2人で傾斜の緩そうな大平側を下っていただく。



ここからしばらくの間は、とても気持ちの良い尾根で、駿河湾や伊豆半島方面、それにこれから向かう鷲頭山がよく見えていた。次の峠は、志下峠。ここには、ぼたもち岩という、大きな岩があった。堆積岩で、岩がコンクリートに埋められたような岩なので、垂直やオーバーハングもあるが、ホールドが豊富なので、Kさん、Fさん、Yさん、Dさん、そして私の男衆が登って楽しんだ。

ここから鷲頭山への登りとなるが、中将岩と呼ばれる岩小屋風になった大きな岩から、ものすごい急登が始まる。ロープに掴まってぐいぐいと登っていく。標高差で100mほどの登りだろうか、登り着いたところが小鷲頭のピークだった。ここも見晴がよい。一画に、中将さんが切腹したという場所が、ロープで示してあった。

ここから、もう少し登ったところが、鷲頭山の山頂だった。沼津アルプスの最高峰で、ここも展望はよい。みんなで写真を撮ってから、下

りにかかる。下りもなかなか急だった。山口道への道を見送り、さらに行くと、両側が切れた痩せ尾根となる。岩尾根でもあり、慎重に通過する。樹肌が赤っぽくなった木は、ウバメガシのようだ。赤っぽいものは、藻類ではないでしょうか？



鷲頭山の山頂に到着

## 黒斑山(2月11日～12日)

参加者 会員(障害者5名、健常者11名)

2月11日

事前の天気予報では、金曜日、土曜日と関東地方が最近10年間で最もたくさん雪が降ると伝えていた。予定の黒斑山も大荒れで、登頂は無理ではないかと思っていた。

しかし、あさま2000のスキー場は、それほど降雪もなく、視界もまずまずだった。

高峰マウンテンロッジの宿泊手続きを済ませ、空身で明日登る黒斑山方面の下見に行くことにする。地図では、車坂峠から道があるようなので、峠に行こうと車道を歩いていたら、すぐ左側に赤テープが付いているのを見つける。赤テープを探すと、黒斑山方面に続いているようなので、車道から離れて、登山道の方へ移動する。しかし、ここにはトレースがないので、ワカンをつけていても腰くらいまで潜る。前方

ようやく多比口峠に到着する。予定では、ここから大平山を往復することになっていたが、時間もオーバーしているので、このまま下ことにする。少し下ると、コンクリートの道になる。厳しかった縦走も終わり、ホッとする一時だ。一袋100円のみかんを売り切れるまで買って、多比のバス停に向かった。お疲れさまでした。

## コースタイム

沼商前(10:30)...徳倉山(11:10-11:20)...282m  
付近(11:45-12:15)...志下坂峠(12:35-12:45)...  
志下峠(13:20-13:40)...鷲頭山(14:15-14:30)...  
多比口峠(15:15-15:30)...多比バス停(16:05)

の数人は、がんばって道を付ける。

しかし、赤テープのところに来たら、雪が積もっているがトレースがあり、ラッセルの必要はなくなった。

赤テープを頼りに登っていくと、車坂峠からの道と合流する。この道は中コースだ。さらに少し登ると、開けたところになる。右側に向かってちょうど良い斜面があったので、ここで滑落停止などの練習をすることにする。滑落停止をしたあとは、キックステップで斜面を上がる。その後は、前転をしてから、滑落停止をする練習もした。



一回転して滑落停止の練習

訓練というよりは、楽しく練習をして、来た道を引き返す。ロッジの手前にあった、シカのもニュメントをさわってみたら、金属製なので、登ろうとしたが、一人では高く登ることができなかった。それで、何人かで力を合わせて、上に押し上げ、何人かが背に乗ることができた。良い大人が、すっかりはしゃいで楽しんでた。

テント組の5人と別れ、11人はロッジに泊まる。ロッジ組は、暖房のよく効いた部屋で、少し汗ばみながらもぐっすり眠ることができた。テント組も、おいしい鍋料理を食べ、暖かく眠れたようだ。

2月12日

6時頃はまだ曇っていたが、8時頃外にでると、雲が薄くなり、日も差すようになってきた。もしかしたら、浅間山も見えるのではないかと期待が高まる。



きれいな樹氷

昨日はワカンを履いて登ったが、トレースができていることが分かり、夜の積雪もそれほどないようなので、ワカンは置いていくことにする。ただ、雪が締まっている可能性が高いので、ロッジからアイゼンを着けていくことにする。

上空には青空が広がり、ロッジの横から籠ノ登山と水ノ塔山が見えていた。周囲の樹氷もとてもきれいだ。

8時20分に出発する。昨日のトレースを使って順調に登っていく。新しい積雪は、10センチから15センチほどだ。昨日、滑落停止をしたところを過ぎ、樹林帯へと入っていく。時

折、木々に積もった雪が、ばさっと落ちてくる。雲の縁は、彩雲となっていて、美しい。樹林が切れたところからは、うっすらと雲がかかった水ノ塔山が見えた。スキー場の左には、高峰山も見えている。まずまずの天気だが、黒斑山方面は、雲の中だった。



日の差す雪道を登る

時折、雪の降る中を登り、表コースとの分岐に到着する。目の前には、外輪山の火口壁が見え、うっすらと見えた山は、剣ヶ峰のようだった。ここからトーミの頭までは、ちょっとした岩場となる。積雪が少ないので、アイゼンを岩に引っかけないように、注意して登る。

トーミの頭から左に折れ、樹林帯を登っていくと、黒斑山の山頂に到着した。山頂の表示板のすぐ向こうは、断崖絶壁のようだ。標識の向こうに行かないように注意を即して、みんなで写真を撮る。



黒斑山の山頂にて

山頂を後に、樹林帯を下り、トーミの頭から岩場を注意して下る。私とTNさんはアイゼンを外して下ることにする。

少し、傾斜のあるところでは、シリセードで

下る。登りは時間がかかったが、下りはあっという間。車道に出て、ロッジに到着する。テント組の人たちは、Hさんの車で、車坂峠にある温泉に入りに入った。私たちは、スキー場のレストランで昼食を取り、タクシーが迎えに来る時間を待つことにする。

車で帰るHさんたちを見送り、15時過ぎに来たタクシーに乗り込んで、小諸高原の高速バス停に向かう。高速バスは、連休の中日のせい、渋滞もほとんどなく、順調に池袋に到着した。

雪山初経験の方もいましたが、みんなで山頂に立つことができ、いろいろ楽しむことのでき

## 帯那山(2月24日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)  
会員外(健常者1名)

昨日のすばらしい天気とうって変わって、千葉の自宅を出る時は、小雨が降っていた。晴れていれば富士山方面がよく見える帯那山だけに、快晴に恵まれて欲しかったが、天気だけはどうしようもない。

自身事故があって遅れるといわれた京王線も、1本速い電車に乗れたこともあり、予定よりも早く高尾駅に着いた。高尾駅で、Mさんと合流し、初参加となるTさんとも合流できた。Aさんも途中で合流し、山梨市駅からタクシーで帯那山登山口まで入る。

登山口に到着した時は、少しポツポツと雨が降っていたが、雨具を付けず、自己紹介をして歩きはじめる。

雨もすぐに止み、かなり明るくなってきた。登山道は、非常に広くて、危険な場所は全くない。ただ、雪が10センチくらい積もっている、滑って転ばないように、注意して登って

た2日間だったのではないかと思います。みなさまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

## コースタイム

2/11 高峰マウンテンロッジ(13:30頃)...中コース下見&雪上訓練...高峰マウンテンロッジ(16:00頃)

2/12 高峰マウンテンロッジ(8:20)...表コース分岐(10:10-10:25)...黒斑山(11:00-11:30)...高峰マウンテンロッジ(12:35)

いく。初参加のTさんもサポートをしてくださる。



時折、日が差し込み、わずかだが青空も見られるようになってきた。このまま晴れてもらえると嬉しいのだが、なかなかそうもいかないようだ。

舗装された車道を超え、もう一度、山頂直下で車道を横切ると、急なコンクリートの道を登るようになる。少し凍っていて、滑りやすいので、帰りは注意が必要だ。

少し登ると、山頂の草原が見えた。広場のようになっているアヤメ群生地を過ぎると、東屋の建つ山頂に到着する。南側が草原状となっているので、晴れたら富士山がよく見えると思う

が、今日は残念ながら雲に隠れて、全く見ることができない。



東屋でゆっくりと昼食を取る。パイナップルやイチゴが振る舞われて、とても贅沢な昼食タイムとなった。Kさん、Mさん、ありがとうございます。



昼食後、山頂で集合写真を撮ろうと、山頂に向かう。山頂では、かなり間近にヤドリギがあったので、近づきたかったが、柵があったので、それ以上はいけなかった。ところが、後をふり向くと、梢に大きめの鳥が止まっている。双眼鏡を持っていなかったが、頭の形や大きさから、レンジャクであることが分かった。秋ヶ瀬などで見たことはあるが、山で見たことがなかったので、びっくり仰天で、集合写真を撮ることも忘れて、レンジャクの写真を撮りまくった。帰ってきて写真をよく見たら、キレンジャクだっ

た。

キレンジャクに会えて、とてもラッキーだったが、雨も降りだしてきて、寒くなってきたので、予定していた奥帯那山に向かう。途中、シカの足跡に沿って、雪が付いて滑りやすいところを歩いたが、尾根通しに行った方が安全だったようだ。

奥帯那山には、二等三角点があった。ただ、展望は全くなく、みんなで冗談を言いながら、引き返してきた。

登りはじめは暑かったが、稜線付近は、風もあり、かなり寒いので、帯那山に戻っても、休まずそのまま下り続けた。お昼の時にいたキレンジャクはもういなかった。

タクシーの迎えを15時にお願いしていたが、電話を入れて14時30分に変更してもらった。

急なコンクリートの下りを慎重に下り、安全な道をどんどん下っていく。AAコンビは、登りも下りも、絶口調だ。とぎれることなく、話が続いている。意味のある話かどうかは？ですが？

下るペースが速いため、もっと早くタクシーに来てもらえば良かったかなと思ったが、14時5分に登山口に到着すると同時に、タクシーも来てくれた。

今回は、天気あまりよくなくて、展望が全くありませんでしたが、キレンジャクに出会い、下ってくる途中では、ミヤマホオジロにも出会えました。いつか、アヤメの咲く頃に、もう一度来てみたい山でした。

#### コースタイム

帯那山登山口(10:45)...帯那山(12:05-12:50)...  
奥帯那山(13:05-13:10)...帯那山登山口(14:05)

## 講習会報告

子ども登山教室リーダー養成事業・読図講習(畦ヶ丸)(1月29日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

今日は、4人だけの少数メンバーだ。天気予報はあまりよくなかったが、空は薄曇りで、まずまずの天気だ。

大滝橋でバスを降り、地図で現在位置を確認しながら登っていく。天気も良くなり、時折日が差し込むようになった。雪もなく、冬枯れの山道を気持ちよく歩く。権現山から伸びる尾根を回り込んで、河原におり、鎖の付いたところを登っていくと、マスキ嵐沢に着く。この付近は、花崗岩のようで、沢の石の多くは白い。土もざらざらで、花崗岩が風化したものだ。



ウスタビガの繭です

河原にあったミツマタに緑色のきれいな繭がぶら下がっている。名前を思い出せなかったが、ウスタビガの繭だった。

マスキ嵐沢からは、ジグザグに登り、尾根をトラバースして大滝沢に戻る。そこから少し行くと、一軒屋避難小屋だった。同じバスに乗っていたご夫婦が休んでいた。

ここから上は、25000分の1地形図では、登山道に沿って「東海自然歩道」という字が書かれていることと、小さな尾根が入り組んでいることで、登山道が沢を通っているということが分かりにくかったようだ。しかし、Nさんが持ってきた縦横2倍に拡大した地図は見やすくとても助かる。この付近は、日が当たらないこともあって、雪がうっすらと積もっている。沢の付近は一部凍っていたが、水流はしっかり

とある。



日の当たる山道を登る

沢から離れ尾根に取り付く。ここを上がったところが、大滝峠上である。ここで昼食にする。先程のご夫婦も休んでいた。Nさんが持ってきたクマ肉の缶詰をいただく。少し硬いが、昔食べたくじらの缶詰のような味がする。また、シカのカルパスもいただいた。こちらも少し硬く、独特の味がした。どちらもビールのつまみにはちょうど良さそうだ。

大滝峠上からは、南にある屏風岩山がよく見えていた。ここから登っていくと、右手の葉を落とした木々の向こうに檜洞丸が見えてくる。山頂付近の木々も白くなっていた。登山道にはアセビの木が増えてきた。もうつぼみを付けて、春を待っているようだ。

5つほどの小さなピークを超えた山頂手前のピークには、蛙ヶ丸避難小屋がある。先程のご夫婦は、昼食中だった。この頃には、すっかり曇ってきて、ちらちら雪が降りだした。



蛙ヶ丸の山頂にて

ようやく山頂に到着し、ご夫婦と写真を取り合う。ご夫婦は、長居はできぬと、西沢方面に

すぐに下っていった。こちらは、Tさんがお湯を沸かしてくださり、みんなで生姜湯をいただく。体が温まって、元気が出る。しかし、雪はすっかり本降りになってきた。

私たちも早々に下山にかかる。しかし、少し歩きはじめると、雪は止み、日が射しはじめ、周囲の山の展望も良くなってきた。大きな大室山が木々の間からよく見える。檜洞丸も見えていた。

モロクボ沢側が切れたところを過ぎ、少し行ったところが善六のタワだった。私たちは、少し手前のテーブルのあるところで休憩した。

善六のタワからは、急で小さな尾根をぐんぐん下っていく。両側から枯れ沢が落ち、合流するところが標高920m付近だ。みんなは、もう本棚沢の当たりと思っていたようだが、甘い甘い。ここから山腹をトラバース気味に下り、沢を渡って、小さな尾根のピークのところから、もう一度、急な小尾根を下る。右手から、轟々と言う沢音が聞こえてきた。これが本棚沢だ。音は、本棚(滝)の落ちる音だった。かなり大きな立派な沢だった。

ここからは西沢に沿って下っていく。丸太の

橋を何度も渡り返す。堰堤がでてきて、階段で下りるが、西丹沢の吊り橋は、まだ左の尾根の末端まで行かないと着かない。大きな堰堤は、二つ目を超えると、もう近かった。

バスの時間に遅れず、ちょうど良い時間に西丹沢自然教室のバス停に着いた。こちらがバスの時間を10分ほど間違えていて、ゆっくりしていたら、バスがドアを閉めて動き始めたので、驚いて止めたが、運転手さんに文句を言われてしまった。「バスが発車するけど、あんたら乗らないのか?」と言ってもらえたら、気持ちよく感謝したのに。

ということで、最後が拍子抜けでしたが、なかなかおもしろいコースで、読図の勉強になったのではないのでしょうか?

#### コースタイム

大滝橋(9:40)...マスキ嵐沢(10:20-10:25)...一軒屋避難小屋(11:00-11:10)...大滝峠上(12:00-12:35)...畦ヶ丸山頂(13:30-13:55)...善六ノタワ(14:35-14:45)...本棚沢出合(15:35-15:50)...西丹沢自然教室(16:50)

## ハイキング報告

### 第26回ふれあいハイキング(證誠寺)(2月20日)

参加者 会員(障害者1名、健常者10名)  
会員外(健常者5名)

木更津駅に着くと、狸囃子の音楽が迎えてくれる。木更津駅の発車合図は、狸囃子のようだ。

今日は残念ながら、どんより曇っていて、青空は期待できそうもない。先に木更津駅に来ていた方の話を聞くと、少し前に雨も降ったとか。

やや心配ではあるが、昼間は降らない予報を信じて、自己紹介のあと、歩きは始める。

今回は、4人の小学生が中心になりそうだ。今の證誠寺で狸をみることはないと思うが、商店街などでいくつ狸の置物を見られるか、子どもたちに数えてもらう。

いろんな狸が立っている。中にはマイクを持って歌を歌っているような狸もいた。とてもりアルで立体感のある狸を家の壁に描いた絵もあった。

そんな狸を楽しみながら歩いていくと、まずは八剱八幡神社に到着する。ここは、源頼朝が

神領と社殿を寄進したという言い伝えがあるが、御輿の立派さなどに驚いた。



次は、狸囃子で有名な證誠寺に到着する。狸囃子の碑や大きな鐘が迎えてくれる。記念写真などを撮って、次の見染の松に向かう。与三郎とお富の逢瀬の頃の松はなくなったようだが、数本の松が植えられ、再現している。その少し先には、木更津甚句の銅像(?)もあった。子どもたちは、近くにある滑り台を、ウンチの滑り台だと言って、喜んで滑っているが、ウンチではなくて巻き貝を模したもののようだ。その隣には蛤のようなモニュメントもあった。



そこから富士見大橋を渡って、潮浜公園に行く。公園で昼食にする前に、子どもたちには広場を2周走ってきてもらう。子どもたちは「何のために走るんだろう」という疑問を持ったようだが、あまっているエネルギーを使ってしまうためだ。

昼食は海の近くのベンチで食べたが、海からの風が寒く、かなり厳しかった。食後は、童心に返って、子どもたちと滑り台やターザンのよ

うにぶら下がる遊具で楽しんだ。



その後は、公園をあとにして、中の島に向かう。ここは、恋人の聖地に指定され、狸のカップル像がある。その脇には、南京錠を付けて永遠の愛を誓い合うことができるラブフェンスがある。今回は、恋人同士はいないので、見るだけにして、日本一高い歩道橋といわれる中の島大橋を渡って中の島に行ってみる。

大橋からは、天気が良ければ、富士山もよく見えるはずだが、今回は残念ながら見えなかった。しかし、春に潮干狩りをする干潟や自衛隊の木更津駐屯地が見えた。南側には、新日鐵の君津製鉄所も見えている。



中の島では、N君が「どろけい」をしようという。大人はやりたくなかったのだが、いつの間にか、どろぼう組と警察組が決まっていた。仕方ないので、大人も真剣にどろぼうを追いかけたが、財宝を奪われてしまった。真剣に走った大人は、山よりも疲れましたね～。

そこからは、木更津駅に戻るだけだが、途中で海の幸の販売店に立ち寄った。生きたサメや

ヒラメ、エビや貝などが売られていた。お土産をたくさん買い込んで、木更津駅に戻った。

雨に降られることもなく、子どもたちの楽しい会話を聞いたり、一緒に楽しんだり、これまでになく新鮮な一日でした。狸の置物は、27体とか29体とかいろいろでしたが、どこまで

を置物とするかが難しいので、だいたいそんなものかな〜と？

#### コースタイム

木更津駅(10:30)...潮浜公園(11:35-12:40)...木更津駅(14:30)

### 第14回ミニハイキング(新川最上流)(2月27日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)  
会員外(健常者3名)

数日前の天気予報では、曇り後雨だったので、心配していたが、今日はすばらしい天気に恵まれた。

勝田台駅に全員集合し、自己紹介をした後、バスでもえぎの車庫まで行く。ここから歩きはじめるが、羽毛服を2枚も着てきた方がいるので、それでは暑いでしょうとみなさん、少し薄着になる。

すぐに車道から別れ、農道にはいると、広い田んぼが広がる。道の脇には、オオイヌノフグリがたくさん咲き、ホトケノザも咲き始めている。新川に出ると、対岸では野焼きをしているようだ。釣りをしている人もかなりいる。



遮るもののない新川の畔を歩く

新川に沿って、印旛沼方面に歩く。上空では、ヒバリが元気にさえずっている。地面には、ツ

グミが小走りに歩いては止まって周囲を伺っている。葦原では、オオジュリンやホオジロが動き回っている。対岸にはアオサギが4羽も集まっている。川を泳いでいるのは、オオバンやカイツブリだ。コサギだろうかサギの仲間も飛び、ユリカモメも飛んでいる。一度だけ、チョウゲンボウが通り過ぎていった。

川と反対側の葦原でオオヨシキリのさえずりがしたので、「おかしいな〜。夏鳥なのに、まさか渡りそびれてしまったのだろうか?」と思っていたら、近くでモズを発見。そうか、モズがオオヨシキリのまねをしていたのかと、納得。



足下には、ツクシも顔を出していた。まだ、顔を出したばかりのようだ。もう春が始まっていることを実感する。

どこまでも真っ直ぐに続く新川に沿って歩いているが、手繰川の分岐はもうすぐなので、そこでお昼にしようと思うが、少し疲れた人も出てきたようだ。それでも、もう少し、もう少しとがんばって、手繰川の分岐のベンチのある

ところでお昼にする。



お昼の後は、さらに新川に沿って歩く予定だったが、手繰川にカワセミがいるという情報をKさんからいただいたので、急きょ、手繰川に沿って歩き、ユーカリが丘駅に行くことにする。

手繰川沿いに歩いていくと、今年始めてウグイスの囀りを聞くことができた。スーパーでト

イレを利用させてもらい、さらに川に沿っていくと、カワセミが飛んでいった。残念ながら、止まった場所を確認できないまま、反対側に飛んでいってしまった。

ここから、上座公園を経由して、ユーカリが丘駅に到着した。途中から予定を変更してしまいましたが、ここからさらに、歩いて勝田台まで帰る人も数人いました。みなさん元気です。午前中は、無風でしたが、午後から風が強くなって、杉花粉に悩まされましたが、最後までお疲れさまでした。

### コースタイム

もえぎの車庫(10:10)...手繰川(12:00-12:30)...ユーカリが丘駅(13:50)

## その他事業報告

### 臨時総会を開催しました

八千代市の八千代台東南公民館で、平成23年度の事業計画を決める臨時総会を1月22日に開催しました。出席は、当日の19名と書面委任44名を含む63名で行われました。(賛助員の方1名の参加があり)

来年度の計画については、議案どおり承認されました。他に、リーダーや理事の責任に関す

る意見交換を行いました。今後、リーダーを担っていただける人を増やす必要があるため、今後、入会時に承諾書をいただく方向で、理事会で検討を進めることとしました。

詳細は、臨時総会議事録と理事会議事録(2月17日)を参照ください。

### 第3回活動紹介映写会を開催しました

今年で3回目となる活動紹介映写会を八千代市総合生涯学習プラザで実施しました。

広報やちよ、八千代(北総、佐倉)よみうり、地域新聞、やちよ市民活動センター、千葉市民活動センター、八千代台の公民館などを通じて広報を行い、会員以外の方は17人、会員は12人の参加でした。

上映した内容は、2010年度に実施した「共に楽しむ登山」、「第4回自然と親しむ子ども山登り教室」、「リーダー養成コース」、それと

スライドショーとしました。

また、山仲間アルプの趣旨や事業内容などを、



パワーポイントを使って説明しました。

会員以外の方にアンケートをお願いし、その

結果は、下記の通りです。(当日回収分のみ)

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？
- |             |   |               |   |
|-------------|---|---------------|---|
| a. 良く知っていた  | 1 | b. 名前だけは知っていた | 3 |
| c. 全く知らなかった | 4 |               |   |
2. お住まいはどちらですか？
- |            |   |          |   |
|------------|---|----------|---|
| a. 八千代市内   | 6 | b. 佐倉市   | 0 |
| c. その他千葉県内 | 2 | d. その他の県 | 0 |
3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？
- |                              |   |
|------------------------------|---|
| a. 広報やちよ                     | 4 |
| b. 八千代よみうり(または佐倉よみうり、北総よみうり) | 1 |
| c. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ        | 1 |
| d. やちよ市民活動センターのホームページ        | 0 |
| e. 知人からの紹介                   | 1 |
| f. ホームページ                    | 0 |
| g. その他                       | 1 |
4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？
- |              |   |             |   |
|--------------|---|-------------|---|
| a. 良く分かった    | 6 | b. 何となく分かった | 1 |
| c. 良く分からなかった | 0 |             |   |

【理由】(自由記述)

- ・以前、会に参加させていただきましたが、体調が悪くなり、参加できなくなり残念です。今日の映写会はすばらしくみなさん楽しく山登りをしていました。また、こういう機会をしてほしいです。貴重な映像ありがとうございました。

5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？(自由記述)

- ・あたたかい会と感じました。
- ・気楽に参加できそうな気がしました。
- ・障害のある方や子どもたちとの登山に興味があり、参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・ハンディキャップのある方をサポートしての登山、ハイキング、なかなかできることではないです。ご立派です。
- ・楽しく活動されている様子が映画を通じて良く分かりました。身体を動かすことが大事ですね。共通の目的がうかがえました。なお、最近、“障害者”の障害を「障碍」というべきだと声が大きくなりつつあります。国語審議会では採用されませんでした。

## 個人山行報告

### 美ヶ原(12月25日～26日)

参加者 会員(障害者6名、健常者8名)  
会員外(健常者1名)

12月25日

関東はすばらしい天気だが、甲府盆地に入ると、南アルプスは雲の中で、山容を見ることができなかった。富士山は見えているものの、やはり強力な寒気の流入で冬型が強いため、太平洋側気候の高山も、影響を受けて悪天のようだ。

下諏訪駅で下車し、美ヶ原高原ホテル山本小屋の送迎バスに乗車し、山本小屋に向かう。駅周辺もうっすらと雪化粧していたが、登るにつれて、雪が多くなっていく。ピーナスラインの上部に来ると、もう完全に一面の銀世界だ。

山本小屋に着き、受付を済ませて部屋に案内してもらおう。廊下などは非常に寒い。部屋の中も、最初は3 程度だった。ストーブをつけて暖を取りながら昼食とする。

昼食後は、牛伏山に登ることにする。小屋でスノーシューを借り、小屋の方から足のサイズを合わせていただいて、各自、スノーシューを履く。人数が多いので、さすがに時間がかかるが、しっかりと準備をして歩きはじめる。



美ヶ原を訪れたのは、今回が初めてだが、昭

文社の地図を良く読んでいなかったこともあるが、地図に書かれた名前だけを見て、美ヶ原高原ホテルと山本小屋という二つの山荘があるものとばかり思っていた。しかし、地図に書かれた山本小屋は、休憩所なので、正しくは、山本小屋ふる里館のことだった。そして、高原ホテルは、美ヶ原高原ホテル山本小屋が正式名称だ。

その辺を勘違いしていたため、牛伏山に登ろうと歩きはじめたら、すぐ目の前に美しの塔が見えたため、すぐに180度方向転換して、牛伏山に向かった。

周囲は、十分視界があるものの、北西風が強く、非常に寒い。スノーシューを利かせて登っていくと、30分ほどで牛伏山に到着した。遮るものが何もなくて、非常に寒いので、長居はできない。集合写真を撮って、早々に下山にかかる。それでも、山頂からは、明日登る予定の王ヶ頭や長野市方面が見えていたようだ。

山本小屋に戻って、部屋で歓談の一時を過ごす。夕食時には、クリスマスケーキが振る舞われ、ろうそくを立てて、クリスマスを祝った。



12月26日

朝起きて、外を見るが、霧に包まれて視界は良くない。しかし、何も見えないホワイトアウト状態ではないため、予定どおり出発すること

にする。ただ、NさんとYさんは、今日は出か  
けず、小屋で待つことにする。

昨日同様、スノーシューをセットし、昨日の  
牛伏山とは反対側に歩きはじめる。

昨日より、視界は良くないものの、風は少し  
弱いようだ。美ヶ原といえば、やはり美しの塔  
が有名だ。そこで集合写真を撮る。ただ、Aさ  
んとNRさんは、スノーシューを使わず、アイ  
ゼンで来たため、ここから引き返して、小屋で  
待つことにする。



他のメンバーは、牧場に着けられた遊歩道を  
歩いて王ヶ頭に向かう。美ヶ原を巡回する雪上  
車が何台か通り過ぎて行った。緩やかな高原の  
斜面に佇む木々は、美しい樹氷となっている。  
この樹氷を青空の下で見られたら、今回参加し  
た子どもたちの心にも、きっと強く印象つけら  
れると思うのだが、自然は、決して人が望むよ  
うには動いてくれない。



凍り付いたような「美ヶ原高原」の大きな木  
の看板を過ぎると、電波塔が見え始めてきた。  
昨日は、牛伏山付近からもよく見えたが、今日

はこんなに近づかないと見えないくらい、視界  
が良くない。

王ヶ頭ホテルのすぐ右脇を通っていくと、御  
岳神社の祠がある。その先が、美ヶ原最高地点  
の王ヶ頭だ。晴れていれば、北アルプスがよく  
見え、最高の展望だと思うが、あいにく今日は、  
全く展望がない。見えるであろう大展望を心  
の中に描いて、集合写真を撮った後は、早々に引  
き返すことにする。

来た道を引き返していると、前のほうにパラ  
グライダーが舞い上がったように見えた。しか  
し、この強風でパラグライダーは、危険な  
のではないかと考えていると、上がった  
り地面近くに落ちたりしている。凧(ス  
ノーカイトというそうです)なのではないか  
と、近づいていくと、風に乗って、ショ  
ートスキーで滑っている。時折、強い風  
が来てカイトが舞い上がると、人も一緒  
に舞い上がる。こんな楽しみ方があつた  
ことを、初めて知った。

山本小屋が近づいてくる頃には、一部分  
だが、青空も見られるようになってきた。  
このまま私たちが高原にいるうちに晴  
れてくれることを期待しつつ、山本小  
屋に戻って昼食タイムとする。



窓の外には、小屋の方が撒いた餌を目  
当てに、ハギマシコの大群が集まって  
きている。ハギマシコは警戒心が強  
いようで、人の動きに敏感に反応す  
るが、そっと写真を撮らせてもらっ  
た。

山本小屋からは、13時30分発の定  
時の送迎バスに乗せていただいて、下  
諏訪駅に向かう。

この頃には、雲もかなり切れてきて、牛伏山や物見石山方面には、日も当たるようになっていた。

今回は、素晴らしい展望を楽しめなかったが、冬山らしい厳しさに触れることができ、良い経験になったのではないかと思います。そして、何よりも、子どもたちが雪の山を好きになってくれたことがうれしかった。

## コースタイム

12/25 美ヶ原高原ホテル山本小屋(13:25)...牛伏山(14:00-14:05)...美ヶ原高原ホテル山本小屋(14:30)

12/26 美ヶ原高原ホテル山本小屋(9:00)...王ヶ頭(10:05-10:10)...美ヶ原高原ホテル山本小屋(11:10)

## 各種連絡事項

### 定期総会を開催します

5月28日(土)に定期総会を予定しています。詳細が決まりましたら、総会の議案書と共

にお知らせしますので、ぜひ、今から予定しておいていただき、ご参加ください。

### 八千代市1%支援制度に「自然と親しむ子ども山登り教室」を申請します

平成23年度も、八千代市で行われる1%支援制度に「自然と親しむ子ども山登り教室」に要する経費を申請します。

市民の方の選択届出は、7月頃になると思いますが、決まりましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

## 会員情報

### 新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

### 正会員

1名

### 退会者のお知らせ

12月以降、残念ですが、2名の方が退会されました。

## 編集後記

### ・理事長のつぶやき

先日、NPO法人子ども劇場千葉県センターから依頼を受けて、「子どもの権利・参画」というテーマで『子ども白書ちば』に、文章を掲載していただきました。「子どもも大人もみんな仲間だよ」というタイトルで書いたのですが、

子どもたちの権利・参画なんて、当たり前のことすぎて、考えたこともありませんでした。しかし、児童虐待が多発する中で、自己肯定感を持たない子どもたちが増えているそうです。

児童虐待は、大きな問題として取り上げられ

ていますが、大人社会の中では、当たり前のように「・・・をしてはいけません」とか「・・・をしなればいけません」という、子どもへの指示・命令がなされています。

例えば、「迷惑をかけてはいけません」と大人は、当然の常識として子どもに言い聞かせますが、果たして、人に迷惑をかけずに生きていける人など、いるのでしょうか？ そもそも、迷惑とは何でしょうか？ それを子どもが聞いたら、どのように受け止めるのでしょうか？ そのようなことを、常に考えて、子どもたちに声をかけているのでしょうか？

現実には、考えながら話すことは難しく、ただ、常識だと決めつけて、教えさとそうしているように感じます。「迷惑をかけること」=「悪いこと」と教えられると、子どもはいろいろな受け止め方をします。

・次回発行予定は、6月です。

「自分は迷惑ばかりかけているから、人から叱られるんだ。自分は悪い人間なんだ。だから、自分なんて消えてしまった方がよいのだ」という子ども実際にいました。

また、「あいつは人と違うことばかりする = 迷惑をかけている = 悪いことをしている。だからいじめられても仕方ないんだ」という受け止め方をする子どももいるのではないのでしょうか？

子育ては、親育ちだと言われますが、親だけでなく、全ての大人が、子どもたちとの関わりを通して、いろんなことを学んでいく姿勢が必要だと思っています。そう思うと、子どもたちは、大人に大切なことを教えてくれる、大切な存在であることが分かります。

子どもも大人も、共にいくつになっても育ち続けていきたいですね。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

